『林業経済』編集委員会（50 音順）
山本　伸幸（編集委員長）　興梠　克久（副委員長）　原　研二（副委員長）
石崎　涼子　市川　隆史　小川三四郎　柴崎　茂光　関岡　東生　関　良基
竹本　太郎　立花　敏　寺内　大左　早瀬　悟史　三木　敦朗　山本　美穂
事務局
土屋　俊幸（所長）　大西　純（事務員）

≪編集後記≫

【ふらふら所長の周辺探検 第 13 回】前回第 12 回の周辺探検は、神田神保町の古書店街を取り上げた。個人的な思い出を書いてしまったこともあり、かなり表層的な記述に留まった。続編を書きたかったのだが、手軽に手に入る資料が限られていることもあり、この世界最大と言われる古書店の集積地をこれ以上深掘りするのは無理かなと思われた。ところが、今年の 2 月末に新刊書店を覗いたところ、『古本屋の誕生　東京古書店史』（鹿島茂著、草思社）という本が目に留まった。まさに出版直後の新刊本だったのだが、前回の周辺探検を載せたのは 1 月号の編集後記なので、まるで（古本屋の）神様が私に続編を書かせるためにこの本を出版させたようではないか。これは書かざるを得ないなと勝手に思い込んで、書き始めた次第。

さて、前置きが長くなってしまったが、古書店の明治維新以降の歴史を見ると、維新は、古本屋業界にとって最初の大きな転機だった。武士階級の没落、京都公家層の東京移転は、大量の和書、漢籍の市場への放出をもたらし、一方、維新後に来日した日本文化に造詣の深いヨーロッパ人や宋・元時代の本物の漢籍が安価で手に入ることに狂喜した清国の知識層による大量の購入によって古書ブームが起こる。しかし当時の古書店街は、江戸時代の主な書籍購入先だった寺院、中でも当時の学問の中心だった芝増上寺の門前町・芝界隈であり、神田神保町にはそのような店は 1 軒もなかった。それが神保町に次々と出店するようになった要因は、前回の「周辺探検」で述べたように、東京大学、東京外国語学校等の官立学校がこの地域に立地したことが大きい。これらの学校は英語等の外国語が講義の公用語だったので、教科書や参考書は洋書だったが、本革装の輸入本は極めて高価だったので、それらの洋書の古本の需要、そしてその洋書教科書の注釈本、翻訳本としての洋装本の需要が急増したのだった。こうした需要に応える洋書中心の古書店として神田神保町に初めて立地したのが「有斐閣」だった。それから数年遅れてやはり洋書古書店として開業したのが「三省堂」であり、時代は下るが大正に入った頃に同様に古書店として当地に開業したのが「岩波書店」である。これらの現在の大出版社は、いずれも神保町での古書店として出発し、経緯はそれぞれ異なるが古書流通から新本の出版へと主な業態を変化させて現在に至っている。神保町は新刊出版社の誕生地でもあったのである。さて、まるで途中だが紙幅が尽きた。続々編乞う御期待。（土屋）

研究所業務日誌（2025 年 4 月）
4 月 7 日　第 1 回編集委員会
4 月 18 日　第 1 回調査研究企画委員会（オンライン）
4 月 21 日　『林業経済』4 月号校了

林業経済（月刊）
〈禁無断転載〉
定価　880 円
（本体価格 800 円）

編集発行人　永田　信
発行所　一般財団法人　林業経済研究所
〒 113-0034　東京都文京区湯島 1-12-6 高関ビル 3A
電　話　03-6379-5015　FAX　03-6379-3210
E-mail : office@foeri.org　URL : http://www.foeri.org/
☆本誌は予約購読を原則とします。購読ご希望の方は直接、当研究所までお申し込みください。
1 年　10,560 円（送料共）（本体　9,600 円、消費税　960 円）
学生および院生は 1 年 5,500 円（本体　5,000 円、消費税　500 円）になります。
購読料の振込先
口座名義人：一般財団法人　林業経済研究所
銀行の場合：三菱 UFJ 銀行　秋葉原支店
普通預金口座　4560904
郵便局の場合：振替口座　00110-1-147629
印刷　株式会社ソウブン・ドットコム　東京都荒川区西尾久 7-12-16